

生田緑地におけるオオタカ *Accipiter gentilis* の繁殖について

平賀孝政*

The breeding of Northern Goshawk *Accipiter gentilis* in the Ikutaryokuchi Park

Takamasa Hiraga*

はじめに

特定非営利法人かわさき自然調査団野鳥班は、毎月第2火曜日に生田緑地の野鳥調査を実施している。今回、著者は生田緑地内でオオタカ *Accipiter gentilis* の繁殖を確認したのでその記録を報告する。

観察記録

調査は目視で行い、写真で記録した。2019年3月初旬頃から生田緑地でオオタカの姿を見る機会が多くなり、オオタカが巣材の枝をくわえ、繁茂に運ぶのを確認した。巣を発見し観察を続けると、4月には抱卵の様子を確認できた(図1)。その後、5月に幼鳥の誕生が確認でき(図2)、給餌する様子がたびたび観察され、幼鳥は順調に成長して

いた(図3)。途中、カメラマンが何人も集まるようになったため、オオタカが巣を放棄しないように6月から営巣地近くの園路が通行止めとなったが、著者は通行止めされた園路への立ち入りの許可をもらい観察を続け、6月中旬には巣立ち間際の若鳥が確認できた(図4)。その後、巣立ちの瞬間こそ見られなかったが7月に巣立ちを確認した。



図1. 抱卵の様子

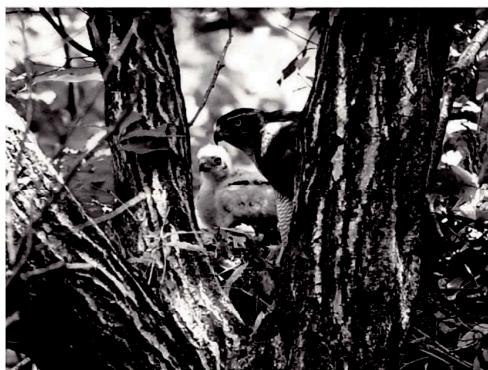


図2. オオタカ *Accipiter gentilis* の幼鳥



図3. 順調に成長する幼鳥



図4. 巣立ち間際の若鳥

さいごに

オオタカの抱卵を確認してからできるだけ刺激しないように注意し見守るようにした。抱卵中の観察はできる限り長くないようにし、ヒナを確認できた時は無事誕生でき安心した。順調に育てとの思いだけで、巣立ちの瞬間は見られなかったが無事

*特定非営利活動法人 かわさき自然調査団 Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation

飛び立った。生田緑地でオオタカの繁殖が確認されたことは喜ばしいことで、またの機会を期待したい。文末となるが、園路の通行止めの配慮と通行止め後も著者の立ち入

りによる観察を許可いただいた生田緑地整備事務所の箕輪所長に心より感謝申し上げます。